



## 保護者による「学校評価」について①

校長 中村 行雄

昨年12月末に保護者の皆様に回答していただきました学校評価について、「南校だより」およびホームページで公表させていただきますとともに、その公表によりご意見等に対する回答とさせていただきます。

なお、いただきましたご意見については、南小の児童や地域の皆さんも含め、多くの目にふれるものですので、掲載にふさわしくないものについては、一部削除もしくは表現を変更して掲載させていただきますのでご承知おきください。

### ■全体として

- ・全体としては、昨年度と同様に「A（大変よかったです）」が減少し、「B（よかったです）」が増加し、「A」と「B」を合わせた肯定的な評価はほぼ変化はありません。
- ・記述のない項目が多いために、具体的な回答ができないことをご理解ください。
- ・回答数は232軒中155軒で、回答率は66.8%でした。
- ・1軒あたりの評価が0.65%となります。

### 評価について

A：大変よかったです B：よかったです C：あまりよくなかった D：よくなかった

### 昨年度の評価との比較



1 学校は、学校教育目標「賢い子、優しい子、強い子」の具現のため、基礎学力の定着に努力している。

A : 29.7% B : 67.7% C : 2.6% D : 0.0%

- ・記述なし

■授業では、児童が自分の学習をコントロールしながら、その時間の課題に向けて取り組むことができるよう指導方法を工夫しています。課題に対して一人一人が目標をもって学習に取り組むようにしたり、交流から仲間のよさを取り入れたりすることができるようになります。また、授業の終わりの振り返りでは、その1時間にわかったことを確かめる時間を設け、学力の定着を図っています。

■本年度の全国学力学習状況調査の児童質問調査の結果から、南小学校の児童は、平日や土日、休日に一定の時間家庭学習に取り組む割合が多いことがわかりました。しかし、じっくりと時間をかけて家庭学習に取り組むことが課題であると考えられます。基礎学力の定着には勉強したことを繰り返し時間かけて確かめることも重要であることから、来年度に向けて改善策を考えます。

2 学校は、学校教育目標「賢い子、優しい子、強い子」の具現のため、思いやりやコミュニケーション能力の育成に努力している。

→

A : 27.1% B : 68.4% C : 4.5% D : 0.0%

・記述なし

■思いやりやコミュニケーション能力は、児童の生活全般で育成するべきものであります。学校生活においても、仲間と関わりながら、相手の立場に立って考えることや自分の思いを言葉で伝えることの大切さを経験できるよう、授業や日常の活動、行事への取組、児童会活動を推進していきます。

3 学校は、学校教育目標「賢い子、優しい子、強い子」の具現のため、体力作りや健康増進に努力している。

→

A : 22.6% B : 76.1% C : 1.3% D : 0.0%

・記述なし

■体力や運動能力はコロナ禍を経て低下する傾向がみられましたが、本年度のスポーツテストの結果は、コロナ禍以前とほぼ同じレベルまで回復をしました。体育の授業でACP（アクティブ・チャイルド・プログラム）を取り入れたり、児童の委員会を中心として南小カップやサーキット・トレーニングを行ったりして、児童が運動に慣れ親しむ取組を推進してきました。今後も継続して児童が運動を好きになる取組を工夫していきます。

4 学校は、確かな学力育成のため、2年生以上に教科担任制を先進的に導入しており、児童にとって効果的な指導となっている。

→

A : 36.8% B : 60.6% C : 2.6% D : 0.0%

・記述なし

■児童は専門的な指導を通して、思考力、判断力、表現力等の資質・能力を総合的に高めることができます。さらに、複数の教員からのきめ細やかなサポートを受けることで、児童が安心して学習に取り組み、主体的に学習に向かう態度の向上が期待できます。今後も教科担任制を継続しながら、さらにそのよさが生きるよう工夫していきます。

5 学校は、家庭学習の力を付けるため、学力アッププログラム、宿題などを活用し、効果的に指導している。

↑

A : 20.0% B : 69.0% C : 10.3% D : 0.6%

・3年生はまだ自主的な取り組みだが、もっとみんなが取り組めたほうがいい。（現在、宿題のボリュームは多くないと思うので）

■家庭学習については、1年生から3年生までは家庭で学習する習慣を身に付けるために漢字と計算を中心に取り組むように指導しています。4年生から6年生は漢字と計算に加え、自分に合った内容や方法で「チャレンジ学習」に取り組むように指導をしています。3年生でもお子さんの状況に応じて、お子さんに合った学習をさらに進めていただくこともできます。お子さんと相談してチャレンジしてみてください。

■現在の学校教育では、「主体的に学習に取り組む態度」の育成が大切にされています。具体的には、「粘り強く学習に取り組むこと」と「自分の学習を調整しようとすること」とされています。家庭での学習でも自分に合った内容に自分の方法で取り組み、うまくいかなければ改善をしながら粘り強く取り組む姿勢を大切にしたいです。

6 学校は、読書習慣を育成するための指導を効果的に行っている。



A : 17.4% B : 60.6% C : 20.0% D : 1.9%

・記述なし

■この読書に関する項目が、「大変よかった」と「よかった」を合わせた割合が一番低い結果となりました。また、教職員への調査でも、読書指導については課題があると感じている教職員が多くいます。児童の図書委員会主催のブックトークやPTA家庭委員会主催の読み聞かせなど、本に触れる機会を増やし読書習慣を身に付ける取組をしていますが、その成果が十分ではないことがわかります。ただ、今年度6年生に実施した調査では、平日に30分以上読書をする児童の割合は全国や岐阜県より10ポイント以上高い結果となりました。学年によって差があることも考えられますが、学校としても読書指導の在り方を検討していきたいと思います。

■全校児童に実施した生活アンケートからは、テレビやスマホ、タブレットなどの画面視聴の時間は学年が上がるに伴って増える傾向があります。6年生は約4割の児童が平日に2時間以上画面を視聴しています。これからのことから、読書習慣を身に付けることはもちろん、動画視聴の時間を自分でコントロールする力を身に付けることが大切だと考えます。動画視聴の時間を読書の時間に置き換えるのもひとつの方法です。

7 学校は、学級や学年、児童会や委員会、クラブや異学年グループなど、集団活動を通して適切な人間関係能力の育成を図っている。



A : 33.5% B : 61.9% C : 3.2% D : 1.3%

・記述なし

■小学校での異学年集団による活動は、社会性や人間関係能力の育成、リーダーシップの育成など、児童にとってたくさんの意味があると考えています。今後も児童がこれらの力をより身に付けることができるよう、活動内容や方法を工夫していきます。

■地域ごとのグループによる集団登下校も異学年での活動のひとつとして考えられます。異学年の児童が登下校をすることで、高学年児童のリーダーシップや低学年児童の人間関係能力が育ちます。異学年の児童がいるので、トラブルも起きますが、そのトラブルを解決することも問題解決能力を養うことになります。児童にそれらの力を付けるためには、保護者や地域の方の適切な支援も不可欠です。どうぞよろしくお願いします。

8 学校は、児童のよさや頑張りを適切に評価し、児童の自己肯定感を高めるよう、適切に指導している。



A : 38.1% B : 59.4% C : 1.9% D : 0.6%

・記述なし

■南小学校が取り組んでいる学年担任制と教科担任制のメリットのひとつに、児童のよさや頑張りを複数の教職員で認めることができます。その教職員に認められることができ、児童の自己肯定感を高める要因になると考えています。今後も、児童が目標をもち試行錯誤を繰り返しながら粘り強く取り組むことを大切にして、児童がより自己肯定感を高めることができるようにしていきます。

9 学校は、学校施設・設備の充実や保守を行い、児童にとって適切な教育環境を整え、管理している。



A : 32.3% B : 63.2% C : 4.5% D : 0.0%

・記述なし

■本年度は、児童の安全な生活を守るために、老朽化が進んでいた校舎と運動場の間にあるウッドデッキを撤去しました。また、車椅子がスムーズに出入りできるように、来賓玄関の入り口のタイルも張り替えました。現在、理科室や音楽室などの特別教室にエアコンを設置するための工事を行っております。今後も児童が安心して安全に学校生活ができるよう、市教育委員会とも相談しながら施設・設備を充実させていきます。

10 学校は、早寝・早起き・朝ご飯といった、基本的な生活習慣の育成について指導し、児童に定着させている。

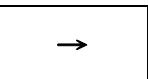


A : 22.6% B : 71.0% C : 6.5% D : 0.0%

・記述なし

■11月に実施した児童の生活に係る調査では、10時前に寝る児童の割合は1年生から3年生で約9割、4年生から6年生で約7割でした。朝7時前に起床する児童の割合は1年生から3年生、4年生から6年生とも約9割でした。朝食を毎日食べる児童の割合は、全校で約9割でした。また、本年度6年生を対象に行われた調査では、「健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立てていますか」という質問に対して、約9割の児童が肯定的な回答をしています。保護者の評価は若干下がっておりますが、ご家庭でのご支援や見届けが児童の意識や生活の向上につながっております。ありがとうございます。

11 学校は、命を守る訓練や登下校指導など、児童の命の安全を守るための努力をしている。



A : 42.6% B : 55.5% C : 1.9% D : 0.0%

・雷など引き取り対応をすぐして頂けるのはありがたいですが、「ラインに既読がつかない」「ラインを送っても子供が呼ばれていなかった」ことが立て続けにあり、お迎えの祖父母が困惑したようです。画期的な方法だと思うので、有効活用出来るようご検討いただけますとありがとうございます。

■引き取りについては、児童はもちろん保護者の方などの安全を確保しながら実施する方法として、現在の方法を採用しています。お迎えの保護者の方などにはご心配をおかけすることもありますが、今後のより確実かつ円滑な対応ができるように改善していきたいと思います。

■学校においては、命を守る訓練を年間複数回実施し、様々な状況でも自分の命は自分で守ることを大切にして、適切に対応できる力を養っております。登下校においても地震が発生した場合のシミュレーション等を実施しておりますが、登下校時においては保護者や地域の方のお力を借りすることになります。どうぞよろしくお願ひします。

12 学校は、心の健康調査やいじめアンケートなどを行い、教育相談を適切に行い、児童の実態把握とケアに努めている。



A : 31.0% B : 63.2% C : 5.2% D : 0.0%

・記述なし

■毎月のはじめに「心と体のアンケート」を実施し、児童の困りごとに対応できるようにしています。全児童のアンケート結果を、その日のうちに教育相談担当、生徒指導担当、教頭、校長まで共有し、気になる記述をした児童にはその日のうちに面談をしています。問題があった場合は保護者にも連絡をして、対応を相談しています。